

放射能
だけじゃない

広がる遺伝子組み換え汚染

～急げ！国内法改正～

遺伝子組み換え作物が市場に出回るようになって15年。南米アメリカを中心に遺伝子組み換え作物の栽培面積が増加するとともに、世界各地で遺伝子組み換え作物による汚染が相次ぎ、私たちの大切な食べものや農業、環境が脅かされています。

昨年、名古屋で開催された「カルタヘナ議定書第5回締約国会議(MOP5)」で、遺伝子組み換え生物の規制にかかわる「名古屋・クアラルンプール補足議定書」が採択されました。国際ルールの枠組みはできましたが、これで遺伝子組み換え生物の脅威がなくなったわけではありません。採択から1年、実効性を図る活動はこれからです。頻発する遺伝子組み換え汚染を止めるには、きちんとした国際ルール、そして国内ルールをつくる必要があります。私たち市民にできること、すべきことについて考えます。

食べものと農業について改めて考えようと、遺伝子組み換え大国・アメリカの食品産業に潜む問題点に迫ったドキュメンタリー『フード・インク』も上映します。お誘い合わせのうえ、ぜひご参加ください。

とき

2011年 **10** 月 **15** 日(土)

13:30～16:30 (開場 13:10)

ところ

ウインクあいち 1202 会議室(12階)

名古屋市中村区名駅 4 丁目 4-38 ※名古屋駅徒歩 2 分

【第1部】映画『フード・インク』上映

【第2部】講演「世界で頻発する遺伝子組み換え作物による被害」 天笠啓祐

2010年名古屋MOP5の成果と2012年インドMOP6の課題について／真下俊樹

2010年名古屋COP10後の市民活動は？／原野好正

遺伝子組み換えナタネの自生状況について～愛知・三重の例～／石川豊久

私たちに何ができるか、何をすべきか／西分千秋

資料代 500円

映画『フード・インク』とは

アメリカの食品産業の裏側に隠された問題点に迫り、アカデミー賞長編ドキュメンタリー部門にノミネートされた話題作!

体にいいオーガニック・フードと、スーパーに並ぶお手頃価格の“フード”。同じ野菜や肉にも関わらず、価格にこれ程差があるのはなぜなのか? その理由は、農業自体が巨大企業になってしまった異常な食事情にあったのだ。知らない間に大きなシステムに組み込まれてしまった私たちが、今、本当に食べたいものは何なのか? 観れば必ず今日のごはん選びが変わる、フード・インクドキュメンタリー。
(公式サイトより)



主催:食と農から 生物多様性を考える市民ネットワーク(食農市民ネット)

<問合せ>食農市民ネット事務局 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 1-9-19-207

TEL 03(5155)4756 Eメール office@fa-net-japan.org

http://fa-net-japan.org